

# 工藤市長の所信表明

6月16日から開催された市議会定例会では、工藤市長が2期目の所信表明を行ったほか、一般行政報告や補正予算の審議が行われました。  
※内容は一部を要約して掲載しています。  
全文は、市ホームページをご覧ください。



## はじめに

私は、先の統一地方選挙において、市民の皆さんのご信任をいただき、引き続き、市政運営を担わせていただくこととなりました。

1期目の4年間を振り返ると、私は、わがまちの経済・財政の自立と、安全で安心して暮らせるまちづくり、市民の皆さんとともに考え、行動するまちづくりの実現を目指し、全力で取り組んできました。

間でも成し得なかった課題も残されており、新たに直面している諸問題の解決と併せて、今後も強い信念を持って、市政運営に当たる所存です。

私は2期目の市政運営の柱として、4つの基本方針を掲げました。

また、農水産物の一層の高付加価値化、ブランド化を図り、国内、海外への販路拡大などへの取り組みを積極的に支援し、競争力の強化に努めていきたいと考えています。

**1つ目の柱 「まちの可能性を実感し、未来を拓く市政」の推進**

### 産業の自立化と振興

今、市民生活において何が求められ、何を選択すべきか、様々な決断を迫られる中、市民の皆さんと真摯に向き合い、一つひとつの政策課題の克服に、スピード感をもって対応してきたつもりです。

わがまちの経済を支える第一次産業が、将来にわたって発展できるよう取り組むことは、全国に向け安定した食糧を供給するという意味でも、また地域の結束を高め、活性化につながるという意味でも、非常に重要であることは、言うまでもありません。

トド、エゾシカなどによる被害は、自然環境をはじめ、農水産業や市民生活に深刻な影響を及ぼしており、生産現場、町内会などからも効果的かつ具体的な対応を求められています。

また、「10の約束」の実現には、議員はじめ市民の皆さんのご協力のもと、一定の成果をあげることができたと自負しています。

本市の「食」を巡っては、資源の減少、安定的な供給を支える従事者の高齢化、

しかし、一方では、4年

担い手不足などの課題があり、経営安定化対策や生産基盤の整備、担い手の確保策など、関係者・団体等と連携しながら、より効果的な産業振興策を推進していきます。

また、農水産物の一層の高付加価値化、ブランド化を図り、国内、海外への販路拡大などへの取り組みを積極的に支援し、競争力の強化に努めていきたいと考えています。

盤の安定、雇用対策などについても、積極的に取り組んでいきます。

本市の友好都市である鹿児島県枕崎市との交流については「稚内コンカップロジェクト推進協議会」が、幅広い事業を展開する予定であり、本市としても、地域経済の活性化につながる取り組みに対して、同じく友好都市である石垣市も含め連携を深めたいと考えています。

## 国際化を目指した港湾の強化

稚内港の強化は、産業の発展や輸出入の進展においても大変重要です。

国内外の大型貨物船などによる搬出入拠点港として、更に大型クルーズ船の寄港に対応できる観光拠点港を目指し、航路泊地の更なる水深の確保について、これからも、継続して国などの関係機関に、強く要望していきます。

## 未来志向のサハリンとの経済交流の拡大

道内唯一の外航旅客定期航路である「稚内・コルサコフ定期航路」は、これまでの本市とサハリンとの長い歴史を振り返っても、更に、北海道とサハリンを

## 新エネルギーの推進と水素資源等の活用

再生可能エネルギーについては、温室効果ガス削減など、この小さなまちが、地球環境の保全に少しでも



日ロ定期フェリーを利用するたくさんの観光客

貢献したい、そんな思いで取り組んできました。

このまちの可能性をさらに広げるため、これまでの取り組みに加え、今後は、「洋上風力」や「水素」の導入・利活用にも取り組む必要があると考えています。

洋上風力については、本市でも、民間事業者による、港湾区域内での商業運転開始を目指した動きがあり、国のガイドラインに基づき、関係機関、団体で構成する検討協議会を設立しますが、まずは、検討の経過を十分見守ります。先進地の欧州では、「コスト削減のため、風車の組み立てを建設現場で行わず、基地となる港に資機材を集約し、港で組み立て・出荷する方法が主流となりつつあります。稚内港が風車の組み立て・出荷基地となることは、まだまだ現実的ではありませんが、まちの将来に大きな希望を与えてくれるものであり、私の夢の一つです。

## 2つ目の柱 「みんなが共感し合う市政」の推進

### 笑顔が広がる子育て支援のさらなる充実

これまで、「子育てをすんなら稚内市で」と思っていただけのように、さまざま子育て支援策の充実に取り組んできましたが、これで十分だとは思っていません。

若い世代が、安心して子どもを生み、育てることができ、また子育てと仕事の両立を支援し、地域全体で子どもたちの成長を見守る環境整備を進め、皆さんから「子育てのまち」として、しっかりと評価いただけるよう、一層の充実に努めます。